

# 東京国際フォーラムで 「スイス漆喰アートフェスタ」を開催

## イケダコーポレーション・第4回塗り壁のある風景コンテスト2013

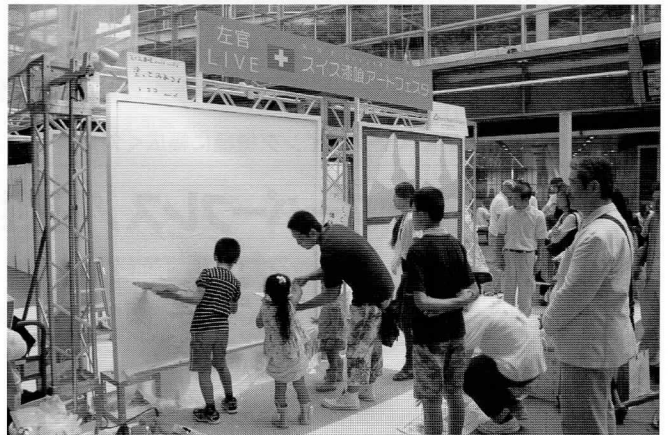
(株)イケダコーポレーション(池田嘉次社長)は8月23日(金)から25日(日)の3日間、千代田区の東京国際フォーラムにおいて「第4回塗り壁のある風景コンテスト2013・スイス漆喰アートフェスタ」を開催した。

同コンテストは、同社のスイス漆喰「カルクウォール」を使った創作パネル(塗り壁創作部門)、及びスイス漆喰に暮らす家族・暮らしのある写真コンテスト(暮らしのPhoto部門)を募集したもので、2009年に続いて4回目の開催となる。審査は8月23日に行われ、作品は会期中、メイン会場のロビーギャラリーに展示された。

最終日に行われた表彰式では、両部門の入選、審査員特別賞、優秀賞、最優秀賞の各受賞者に表彰状と景品が贈られた。塗り壁創作部門の最優秀賞は(有)八幡工業の田原亜沙子さん(作品名:朝霧の森)、暮らしのPhoto部門の最優秀賞は明日の(株)の村尾周三江さん(作品名:明日の株式会社ができるまで)がそれぞれ受賞した。

審査員を務めた久住章氏は、コンテストの品評会で、「前は素人の方が面白い作品を出されていたが、今回は特に左官屋さんが頑張ったという印象が強い。狭い世界で伝統的な仕事をしている本職の方は、自分の好きなように表現していい、と言われると困ってしまう場合が少なくない。そんな中、最近は女性の職人を使って仕事を楽しくしようとしている左官屋さんが出てきた。こういう若い方々は、伝統の中で仕事をするよりも、初めから何か新しいことをやろうという人が多く、色々面白いことを考えられる。これからの左官の希望になるのではないか。学生さんや主婦、設計事務所の方など、自分では普段施工しないけれども、気持ちだけは一杯アイデアを持っていて、自分のやったことを見てほしい、という方の受け皿になれるこのコンテストは素晴らしいと思う」と話し、今後への期待を込めた。

また、表彰式の後、審査員を代表して野沢正光氏が、「左官と大工は、いわば日本の建築の二大自尊心で、大変優れた技術を持った二つの集団だと思う。塗り壁部門は



▲会場のように



▲最優秀賞(塗り壁創作部門)に輝いた田原亜沙子さん

200数十点の応募があり、審査も大変だったが、一般とプロの両方の応募があることが難問だった。最優秀作品の受賞者が、まだ左官歴2年の女性というのに結構驚いている。歴史や伝統のある仕事に対してもう一度目を向ける社会になりつつあるのかもしれないと思い、嬉しく感じている。左官という仕事ますます盛んになるよう願っている」と総括した。

会期中、ロビーギャラリーでは壁塗り体験コーナーが設置されたほか、左官職人によるデモンストレーション「左官LIVE」として、(有)八幡工業が「3Dスイスアルプス」を公